

## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 医学部、医学系研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
医学部、医学系研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある



## 1. 医学部、医学系研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 5 )

## 分析項目 I 研究活動の状況

### 〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

### 〔特色ある点〕

- 平成 30 年に、新たに整備した医工連携拠点棟を拠点とし、これまでに地域で推進されてきた医工連携を集約し、地域の強みを活かした産学官連携による連鎖的・継続的な新技術の事業化、オンリーワン・ナンバーワン製品の創出を推進する体制を確立した。
- 浜松の大学や県、市などの 7 機関で作る「はままつ次世代光・健康産業創出拠点（通称：はままつ医工連携拠点、事務局：浜松医科大学）」は、地域の医工連携に貢献するための活動を行い、浜松医科大学はその中心的役割を果たしてきた。本拠点の特徴である「医療現場のニーズと浜松の工業技術のコラボ」を実現するため、平成 28 年から令和元年までの 4 年間で、医療現場との情報交換会を 7 回（参加者延べ 356 名）、医療現場の現場見学会を 20 回（参加者延べ 150 名）行った。さらに、医療現場のニーズを解決するアイデアの実現性の検証を行うための「スタートアップ支援事業」において、毎年 5 件支援し（50 万円／年）、支援終了後も事業化まで継続してフォローアップを行った。平成 28 年度から令和元年度で合計 20 件支援し、そのうち 4 件が公的資金を獲得（合計 33,070 千円）し、製品化も 1 件達成した。また、医工連携に関連するセミナーを合計で 33 回開催し、延べ 1,076 名が参加した。
- 平成 28 年 4 月に国際マスイメージングセンターを設置した。同センターは、米国、ドイツに並ぶアジアのグローバルデモ拠点として選定され、マスイメージングの手法の標準化に取り組んでいる。Johns Hopkins University（アメリカ合衆国）と、一次繊毛先端切断の細胞生物学意義というテーマで共同研究を行い、細胞に生えている一次繊毛の先端が千切れて膜小胞として細胞の外に放出される現象を発見し、細胞周期との関連について報告した。
- ヒト疾患及び体質個人差に関するゲノム多様性情報の統合データベースとデータベースの管理システムである「Mutation View」の構築を進め、ホームページ上で世界に公開している。平成 28 年度から平成 30 年度まで、科研費「研究成果公開促進費（研究成果データベース）」の採択を受けて、データの拡充を進め、996 疾患（眼、耳、骨系統、家族性腫瘍等）455 遺伝子を中心に、34,368 件の変異情報を収納、公開している。

- 得意とする医学生物分野における光イメージングに関する技術やノウハウを生かし「浜松医科大学メディカルフォトンクス・コース技術講習会」を実施した。平成4年度から開始し、令和元年度で28回目となった講習会は、協力企業の下で、全5日間の日程で開催され、講義と実習の両方が組み込まれていることにより、実践的な講習となっている。平成28年度から令和元年度の4年間で57名が参加し、光医学・光医工学研究者の養成及び社会人教育に寄与した。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

**〔判定〕 相応の質にある**

### 〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、14件、4件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。